

第6期定時株主総会 質疑応答要約

この質疑応答要約は、平成29年6月25日（日）に開催した当社第6期定時株主総会において、出席者の皆様からいただいたご質問とその回答を要約したものです。当社代表執行役社長の鬼頭、代表執行役会長の高島、執行役の高野、執行役の田島より回答させていただきました。なお、当日、株主総会終了後に株主様よりお寄せいただいたご質問についても回答を記載しております。

【Q1】 GMOクリック証券では、定期メンテナンスを3時半～6時半まで実施していますが、私自身は勤務開始が早朝であるため、朝方の時間帯に株式について検討する時間がありません。メンテナンス時間の短縮もしくは変更を検討して欲しいです。

【A1】 (鬼頭) メンテナンス時間については短縮や時間帯について社内でも常々議論していますが、今後お客様にご不便をおかけしないよう対応を検討していきます。

【Q2】 役員にGMOインターネット株式会社の代表である熊谷氏が入っていないのはなぜですか。

【A2】 (鬼頭) 当社グループは金融機関グループであり、一般事業法人よりも一層のガバナンスが求められており、より一層の独立性を確保する観点から、熊谷については、役員として招聘していません。

【Q3】 株式取引に係るツールやサポート体制の在り方について、考えを教えてください。取引ツールの一つである「スーパーはっちゅう君」は、起動時の更新が遅く、また、更新作業にパスワードの再入力が必要となる、回線が重いと強制終了となってしまうことがある、また、タブレットPCなど機種によっては起動しない等、いくつか不満点があります。一方、ホームページでは、お客様の利用環境によってはご利用いただけない場合があると免責事項が書かれていますが、これでは諦めてくださいと言っているに等しく、本来はサポートにご相談くださいという姿勢が必要ではないかと考えています。そういった点を改善すれば顧客からの支持ももっと上がると思うので、サポート体制を見直し、強化して欲しいです。

【A3】 (鬼頭) 我々は、今いただいたようなお客様のご意見を真摯に受け止め、一つひとつ改善に取り組んでいるものの、まだまだ足りない部分もあるため、今後も継続して改善を行い、本当に良いサービスにしていきたいと考えています。機種対応については、タブレット等の販売機種が増えるにつれ、すべての機種を購入しテストすることが難しくなっているのが実情としてあるものの、ホームページなどでのご説明がお客様にとって不愉快とならぬよう表現等を検討していきます。

【Q4】 保有株一覧からある銘柄を選択して個別銘柄画面に遷移すると、戻るボタンがないので不便です。また、優待検索でも検索結果一覧からある銘柄を選択すると同様であるため、改善をお願いしたいです。

【A4】 (田島) 状況についてあらためて確認をしたうえで、改善できる点は改善します。

【Q5】 今年の秋にタイ王国でオンライン証券を始めるということですが、将来的に日本からタイ株を買えるようになる等のサービス展開は考えていますか。

【A5】 (鬼頭) タイでの現地法人設立の目的は、ASEANで株式の取引が一番多い国(タイはASEANで売買代金第1位であり、今後の金融サービスの需要拡大が見込まれる)で、現地のお客様向けにサービスを提供し、成長を図ることです。そのため、現時点では、日本国内のお客様向けのタイ株式取引サービスは検討していません。但し、最近、米国株や中国株など外国株式に関するご要望が多いと聞いているため、外国株式の取り扱いという観点から、検討していきたいと考えています。

【Q6】 あおぞら銀行グループとGMOインターネットグループで進める新ネット銀行について、お伺いします。まず、あおぞら信託銀行への出資比率について、最終的にあおぞら銀行とGMOインターネット、GMOクリックホールディングスとでどうなっていくのか教えてください。また、2018年3月の開業時期が前後するのか、どのようなコンセプトの銀行を目指しているのかについてもお話を伺いたいです。最後に銀行のシステム開発について、内製比率100%なのか、数社のベンダーを使っているのかどうか教えてください。

【A6】 (鬼頭) 現在は、あおぞら信託銀行への出資比率は、当社が7.45%、GMOインターネットと合わせて14.9%です。この出資比率を引き上げるには、親会社としての認可(主要株主認可)が必要で、その取得に向けて動いていくことになります。開業は来年の春を予定していますが、新ネット銀行のビジネスコンセプトは現在も検討を進めており、現時点では詳細をお示ししていません。一方、GMOクリック証券として一番期待しているのは、新ネット銀行との連携です。銀行は裾野が広いサービスであるため、銀行のお客様がGMOクリック証券に口座を開いてくださることによる、口座数、預り資産の増加を期待しています。また、内製比率についてはお示ししていませんが、当社が全面的にシステム開発に携わり、高島がエンジニアとしてもそこをしっかりとグリップしている状況です。

(高島) 内製比率を数値でお示しするのは難しいですが、当社のシステム部がメインで開発に携わっており、勘定系システムは国内のネット銀行でも使われているようなものをカスタマイズして使う、ATMや振り込みなどの外部接続は国内で実績のある大手システムベンダーの製品を使用するという方法を採用しています。ただ、ビジネスの一番の肝となるインターネット銀行のシステム、つまり、パソコンやスマートフォンなど、お客様の利便性、サービスの使いやすさに重要な影響を与える部分(パソコンの取引画面やスマートフォンのアプリ等)は、全て当社で内製しています。詳細はお示しできませんが、コスト優位性があると自信を持っています。

【Q7】 立会外分売で株式を購入し、まだ株価がその水準に戻っていないという状況です。株主優待について、以前はモウカレーうどんやおでんなどが届きましたが、最近はGMOクリック証券の手数料キャッシュバックのみなので、やはり何か商品が送られてくる株主優待の方が世間にアピールし株価対策にもなるのではと思いますが、株主優待と株価の関係についてのお考えをお聞かせください。

【A7】 (鬼頭) 過去にはカレーやおでんをご提供させていただいた時期もありましたが、「美味しい」とご評価いただいた一方、「とても食べられたものではない」と評価が割れました。食品はそれぞれの方の好みがあり、全ての方にご満足いただくのは難しいため、現在は見合わせています。また、株価は色々な要因によってマーケットが決めるものであり、株主優待の株価への影響についてコメントするのは難しいですが、株主優待の内容は、なるべく当社株式の長期保有のインセンティブとなるようなものと考えています。今の株価水準については当社への市場の評価であると真摯に受けています。動画でもご説明させていただいた当社の成長戦略——株式のポジションアップや銀行への出資、仮想通貨での取り組み開始など、今後の成長性をIRできちんと伝えていきたいと考えています。

【Q8】 高島会長がかなり多数の（GMOクリックホールディングスの）株式を保有されています。創業者であるならその理由は理解できますが、どのようにしてそのような株式を保有するに至ったのかを教えてください。また、貸株サービスについて、GMOクリック証券では、GMOインターネットの株式は対象外とされていますが、これは関連会社の貸株をしてはいけないという決まりなどがあるのでしょうか。

【A8】 (高島) GMOクリック証券を最初に企画したのは、私とGMOインターネットです。私は社長としてこの会社を始め、その過程でストック・オプションを付与されています。それを行使した結果として、現在、約199万株を保有しています。

(高野) 貸株サービスについては、親会社の株式を保有すると会社法に抵触するため、対象銘柄を選定させていただいている次第です。

【Q9】 証券会社は、手数料や金利収入など市況に影響されるビジネスですが、新しい収入源として、あらゆる会社の投資レポートが見られる有料のサービスを提供してみてもどうかと提案したいと思います。

【A9】 (鬼頭) ご意見として承ります。ただ、情報で手数料をいただくというサービスの在り方は、我々の企業理念——安く、使いやすいサービスを追求するという目指すべき方向性とは相違するため、お客様が本当にフィーを払ってでも読みたいというものがあれば、どこかでそういったビジネスの在り方を考える可能性もありますが、当面はそのような選択をすることはないと考えています。

【Q10】 株式で財務諸表をグラフで表示するサービスがとても便利なので使っていますが、数字で確認できないのが残念です。有料でも構わないので、CSVなどでのデータ提供を検討してください。

【A10】（鬼頭）ご意見として承ります。改善できる点は改善します。

【Q11】御社がスポンサーとして提供されていたラジオ番組「北野誠のFXやったるで！」を6年間楽しく聞かせていただいていたが、この4月で番組終了されたのが残念です。四半期に一度でも復活していただけたらと考えているが、どうでしょうか。

【A11】（鬼頭）長い間ご視聴ありがとうございました。あの番組を開始した当時は、FXのコアユーザーの方々に我々の会社を知っていただき、FX業界でのポジションを上げることが目的でした。次のステージとして、我々は、ユーザー層の裾野拡大に戦略の舵を切り、現在は、新垣結衣さんを起用したCMの展開などを行っています。ラジオ番組を開始した当初の目的に照らし合わせると、毎週番組を持つことは、コストが課題となり、一旦、番組提供を終了することにしました。とはいえ、コアユーザーのお客様との接点を何かしら持つ必要はあると考えています。それがラジオ番組なのか別の手段なのかこれから考えていきますが、何かしらの「場」を検討していきます。

【Q12】株式分割についてどう考えるか各取締役の意見をお伺いしたいです。

【A12】（当社回答）当社としての考え方をご回答します。株式分割等の具体的な施策は、東証が求める望ましい投資単位の水準、株価動向や市場への影響等、様々な要素や可能性を勘案しながら、総合的に判断していきます。

※Q12は、株主総会終了後に株主様よりいただいたご質問への回答です。

以上